京都大学で講義する

昨日 19 日、京都大学で「財政政策論」の講義をした。じつは 4 月 26 日に講義する予定であった。新型コロナの感染が急拡大し、数日前に緊急事態宣言が発令され、大学は立ち入りが規制され、すべてオンラインでの講義になった。

当時、自宅はまだオンラインに対応できていなかった。講義担当の諸富徹教授にお願いして、26 日を休講にしてもらい、「予備日」の昨日に講義することになった。オンライン講義に備えて悪戦苦闘したが(おかけでズームなどをすこし覚えられたが)、なんとか憧れの京大キャンパスで対面講義ができ嬉しかった。

広い教室に案内してもらい、学生さんが来るのをキンチョーして待った。オンラインと併用講義ということで、教室で受講した学生さんは少なかったが、熱心に講義に耳を傾けてくれた。猛暑のなか、教室で受講してくれた学生さんに感謝したい。

パワーを入れて作ったパワーポイントで、まずは自己紹介から始めた。信州松本の地で大学時代に宮本憲一『社会資本論』初版 1967 年に出会ったこと、大学院生のときに改訂版 1976 年をすこしだけ手伝ったこと、そして『公共事業と現代資本主義』1982 年、『公共事業と財政』2003 年へと話を進めた。一冊の本との出会いが、私の人生を方向づけたことを強調した。

本題に入り、現代社会資本論と地域、都市と社会的共同消費、東京一極集中と東京の大規模開発、人口減少時代の都市社会資本など、『現代社会資本論』第 2 章 1 節・2 節で書いたことを話していった。「お祭り型公共投資」として東京五輪や大阪・関西万博、コロナ禍の都市の課題なども話題にした。

時間が余ると思っていたが、たちまち 90 分が過ぎていった。久しぶりの大学での講義であったが、いつもの調子で話すことができたと思う。ただし、キンチョーしていたせいか、いつものようにダジャレを飛ばすことはできなかった。残念だ。オンラインで受講してくれた学生さんに申し訳ないことをした。「ズーム」をセットしてもらったが、講義に集中してパワーポイントの映像ばかり流してしまった。私の顔を画面にお見せできなった。その方が良かったかもしれないが。

昨日の京都はとにかく暑かった。大阪市役所で仕事をすませ、淀屋橋から京阪電車で出町柳まで行った。そこから大学まですこし歩いたが、頭がクラクラするほど暑かった。帰りはバスで京都駅まで行き、新快速で新大阪に。心地よい疲れであった。

(2021 年 7 月 20 日)